

<p style="text-align: center;"><b>比較現代文化論</b> (Views on Comparative Modern Cultures)</p>	<p style="text-align: center;"><b>1 年・前期・2 単位・選択</b> <b>3 専攻共通・担当 大矢 良哲</b></p>	
	<p style="text-align: center;">〔システム創成工学プログラム 学習教育目標〕 C-1 (80%), A-1 (20%)</p>	<p style="text-align: center;">〔JABEE 基準との対応〕 (f) , (a)</p>
<p>〔講義の目的〕</p> <p>現代文明は、過去にとらわれることなく「簡便で快適」を追求し、新しいテクノロジーを発展させてきた。その一方で人類は危機に直面しているとも言われている。講義では、連綿と続いた人類 5 0 0 万年の歴史について、「進化に学ぶヒトの未来」をテーマに、グローバルな視点から祖先たちの足跡と現在をつなげ、現代人の未来を考える。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>前半は地球進化の謎、ヒトに近い類人猿から人類文明の黎明を講じ、後半部では近代以降における大きな転換点、現在の世界の諸問題について考える。人類の黎明、古代文明をとらえなおすことによって、現代人にとって示唆深い過去の人々の営為を浮かび上がらせる。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>① シラバスを参考にして、予習・復習を行うこと。</p> <p>② 配布するプリント類に目を通し、講述内容をノートすること。 配付資料のほか、教科書などで予習を行うこと。受講した上で、再び教科書・配付プリント・ノートを確認し、理解を深め、試験やレポートの提出に役立てること。</p> <p>③ 世界の視点が見えるためには、受講する学生諸君の姿勢にかかっていることを忘れないこと。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>講義で得たヒトや自然の過去を知ることによって現在の姿を認識し、それを土台として現代文化に関する批判的視点を獲得する。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>成績評価の方法：試験（55%）、調査・ブリーフレポート等の提出（15%）、授業の学習態度（30%）</p>		
<p>〔自己学習〕</p> <p>シラバスによって、授業前に予習し、準備をしておく。講義の後は、授業内容について教科書・配布プリントを基に復習し、理解を深める。</p>		
<p>〔教材・参考書〕</p> <p>教材としては、主に教科書・プリント資料を使用し、ほかに映像等の視聴覚教材も用いる。 教科書 パスカル・ボンファス他著『最新世界情勢地図』（ディスカヴァー・トゥエンティワン）</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>本科で学習した社会科学系諸科目との関連が深く、個々の諸事象を全体へ、またその逆、総合的に大局的なところから考える姿勢を作っていくことが重要である。</p>		

## 講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	シラバス等の説明		
第2週	霊長類と地球環境	緑の惑星地球の進化と人類（映像教材使用）	
第3週	ヒトに最も近い類人猿	森で起こったヒトへの進化	
第4週	ボノボの知性	言語を理解するカンジ（映像教材使用）	
第5週	ヒトから人類へ	直立したヒトから絶滅した人類へ	
第6週	石器時代の文化と農耕	旧石器時代の美術と新石器時代の農耕文化	
第7週	ヨーロッパの全盛期	ヨーロッパの全盛期	
第8週	帝国の崩壊とその影響	帝国の終焉と新たな国家	
第9週	冷戦	冷戦時代と「グローバル化」世界の時代	
第10週	第三世界の分裂	第三世界の分裂	
第11週	人口と言語	世界の人口と言語・宗教	
第12週	石油とガス	地下資源の問題	
第13週	エコロジー	エコロジー問題	
第14週	各国から見た世界	自分の関心のある国について、「それぞれから見た世界」についてレポートをまとめ、その要旨を発表し、レポートを提出する。	
第15週	まとめ	調査結果の発表、レポート提出	

\* 4：完全に理解した，3：ほぼ理解した，2：やや理解できた，1：ほとんど理解できなかった，0：まったく理解できなかった。  
 （達成） （達成） （達成） （達成） （達成）